

申請者:清水順子

論文題目 東アジア諸国における為替変動と国際資本フロー

審査員 金江廣志
三隅隆司
小西 大

本論文は、東アジア諸国の為替変動と国際資本フローについて、いくつかの視点から通貨危機以前と以後に期間を分けて実証分析を行い、東アジア通貨の特徴であるドル連動や国際投資家の東アジア諸国に対する投資スタンスの変化を確認した上で、東アジア市場におけるバスケット通貨建て債券導入の有効性について論じたものである。その結果、今後の東アジア諸国の為替相場と国際資本フローの安定性を確保するためには、バスケット通貨建て債券の導入とともに東アジア諸国のローカルな資本市場の育成が必要であるとの政策的含意を導いている。

本論文の評価できる点として、以下の2点があげられる。第1に、実証分析では従来の研究を発展させ、通貨危機以前と通貨危機以後に期間を分けて東アジア通貨全体を対象にパネル推計も行っており、東アジア通貨のドル連動の構造や国際資本フローの要因について興味深い結果を得ている。第2に、現在東アジア諸国の金融当局が検討しているバスケット通貨建て債券について、実際の市場データをもとにシミュレーションを行い、債券の発行サイドと投資サイドの双方からの評価に基づき、国別にバスケット通貨建て債券の有効性を検討している点である。

本論文の問題点としては、とりわけバスケット通貨建て債券を論じる第5章で、確固たる理論的枠組みが提示されていないこと、実証研究においては、サンプルが少ない分析が見受けられること、また、理論的に導出された結論が必ずしも適切に検証されていない部分があることが指摘できる。

以上のような問題は残存するが、本論文の一部は学会誌に掲載されたものでもあり、全体として学位授与に足る水準に十分に達していると認められる。よって、審査員一同は、所定の試験結果を合わせ考慮して、本論文の筆者が一橋大学学位規則第4条第1項の規定により一橋大学博士(商学)の学位を受けるに値するものと判断する。